

第82号

発行日／令和5年3月1日
発行所／青森県立八戸西高等学校
PTA広報委員会
電話 0178-27-5365
H P / <http://www.hachinohenishi-h.asn.ed.jp/>
印刷所／株式会社オダプリント



校長
渡辺 学

卒業生の皆さんへ

私は、三年前に皆さんの入学と共に本校に赴任し、皆さんの成長を見届けてきました。三年間でたくましく成長し、卒業の日を迎えたことはとても感慨深いものがあります。一方で、皆さんの高校生活は新型コロナウイルスに翻弄され、修学旅行が中止になり、学校行事が縮小や制約を受けての開催を余儀なくされるなど、皆さんの成長の機会を奪つてしましました。そうした状況にもかかわらず、皆さんはしっかりと前を向いて、勉強や部活動、学校行事などに全力で取り組んでくれました。特に、部活動の大いな力で、皆さんの成長を支えてくれたと思います。

卒業生の皆さん、ご
卒業おめでとうござい
ます。それぞれに困難
を乗り越え、今日の日
を迎えることが出来た
ことに対し、心から
祝福したいと思いま
す。

西高祭などの学校行事でのリーダーシップ、そして授業や講習に臨む真剣な姿は頼もしく、本校の目指す「文武両道」と校訓「自啓自発」の精神を行動で示してくれたと思います。

さて、晴れの門出に皆さんに贔（はなむけ）の言葉を送ります。『人生で大切なことは、転ばないことではなく、転ぶたびに起き上がり挑戦することである』これは、黒人差別の激しかった南アフリカで、人種差別の解消に生涯をささげたナルソン・マンデラ元大統領の言葉です。

現代は、変化の激しい時代と言われています。必要なのは、自分の夢をしつかり持ち、正しい知識や技能を身につけながら前向きに挑戦することです。うまくいかないことがあるても、転んでも、そこで諦めず、立ち上がり継続して挑戦することです。

皆さんの未来はこれからです。人生百年時代と言われている中、これからが本番です。本校で学んだことを基礎にして、何事にも積極的に挑戦し、経験を積み、自分の能力を磨いてほしいと思います。皆さんの未来に期待しています。



三学年委員長
菊地 武庄

三年間を終えて



PTA会長
河村 泰輔

子供たちと共に卒業式をもつて三年間を終了いたします。コロナ禍の真っ最中に高校生生活が始まった三年生は想像もしていなかつたものと思ひます。入学式が縮小され、た

修学旅行も中止になるなどの二年間でした。最後の三年生の時に西高祭を行うことができ、また無事に卒業式を迎えることができました。嬉しく思います。

今後は、進学や社会人としてそれぞれの道を進むかと思いますが、この数年間を乗り越えた事や新しい生活に順応してきた事を糧にして前に進んでいただければと思います。

小・中学校とは違い、生徒も保護者も高校

八戸西高等学校での
すべての学業を修め
本日、卒業証書授与式
の良き日を迎えた
卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございま
す。

こと、深く感謝申し上げます。卒業生の皆さん。西高での三年間はどうでしたか。充実した高校生活を送ることができましたか。さまざまな経験をした三年間だつたと思いますが、特にコロナ禍の中、学校生活はもちろん、運動部・文化部・学校行事の活動自粛など、今まで通りにいかないことがあつたのではないでしようか。今まで通りにいかないからこそ、新しい取り組みや創意工夫した活動を実践し、自分達で前例を作り出したことは、皆さんの今後的人生に必ずプラスになると思います。当たり前の生活や当

当たり前の出来事が実は当たり前ではないと言うことにつづいて、
「うことに気づいたこと、
当たり前に流れる日々の生活に感謝すること、
そんな思いをあらためて感じた時期でもあつた」とあります。そんな経験をした皆さんには、新しいことにチャレンジした自信と当たり前のことに感謝できる心が備わり、大きく成長できたと思ひます。

新時代は、皆さんの時代です。新たなスタイルで光り輝くために大きな夢を持つて自分の未来へ突き進んで下さい。

すべては自分次第です。皆さん次第です。
頑張つて下さい。応援しています。

八戸西高等学校を卒業するにあたっては、
部活動を含めた学校生活が、将来においても
良い思い出になつてい
ただければと思いま
す。

卒業に向けて



三学年主任 宇波毅

普通科四十六回生・スポーツ科学科二十回生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様におかれましては三年間、お子様の成長を身近で支え、高校卒業を迎えたことにお喜びと感謝申し上げます。常に新型コロナウィルス感染拡大による教育活動の自粛・制限に苛まれた三年間でありましたが、そんな状況下にあってもやつとここまで辿り着けた、みんなよく頑張った、というのが私の思いです。まずは普通科四十六回生・スポーツ科学科二十回生の皆さんへ感謝、そして彼らを支えてくれた保護者先生方、在校生の皆さんへ感謝の気持ちで一杯です。人との関わりの大切さを再認識した三年間でした。

また、生徒は心身の成長を遂げる時期でもありましたが、ご家庭ではいかがだったでしょうか？学校の中では、生徒に個人差はあつたものの、成長したなあと思われる生徒がほとんどですが、残

いのも事実です。生きている限り成長する機会はいつもあります。早いうちにということで成長を促す保護者・教員であります。が、卒業してからも子供に対して「見守り続ける」という姿勢を持ち続けましょう。いつか、彼らの枕元に神様が現れ、改心する機会が来るかも知れません。「生きている限り色々な機会があり、努力した者ほど多くの機会に恵まれる。それを活かせるか否かは本人次第。」これは私の持論であります。これからも彼らの成長を見守り続けていきたいと思います。

生徒は、コロナマックス世代ともよばれ、十分な学校生活を過ごすことができなかつた可哀想な生徒達と言われることもありました。でも、悪いことばかりじゃなかつたよ、というのが彼らの本音であると思います。また、「いつかきっと必ず良いことが来ると思つて、物事を前向きに捉えて過ごしていたら、他人に対しても優しくなることができたよ。」と話してくれた生徒がいました。このような生徒に出会ったこと、本当に感謝しています。

西高らしさ



一学年主任 浪打東彦

彼女が最後の中体連、キャラテンとして、セッターとして、チームの中核として活躍していた。試合後、監督さんに聞いたところ、努力家で成績はオール5、定期考査は一番以外無し、まさに非打ち所のない生徒であったところ、努力家で成績はオール5、定期考査は一番以外無し、まさに非打ち所のない生徒であった。その年の夏休み、卒業前の三年生を送る会で彼女は後輩達に次の境内で車両誘導する私の後ろから声をかけられた。「勉強はどこで

読み上げた彼女はチームの主力として活躍したことは言うまでもない。そんな彼女も横浜国立大学を卒業して五年、昨年十月に入籍したという。

入学式で誓いの言葉を語った。「いつかきっと必ず良いことが来ると思つて、物事を前向きに捉えて過ごしていたら、他人に対しても優しくなることができたよ。」と話してくれた生徒がいました。このような生徒に出会ったこと、本当に感謝しています。

一年間を振り返って ～各学年主任から～

サッカーワールドカップで、強豪ドイツを破り「ドーハの奇跡」と讃えられた数日後、コスタリカ戦で敗北。予選リーグ最後のスペイン戦を二日後に控えた選手達は、決勝トーナメント進出を心に誓いながら、練習フィールドに大の字に寝ていた。「心を無にして下さい。」

「いや、この『感謝』の気持ちをずっと持ち続けて下さい。この『感謝』の気持ちこそが、あなたの将来、そして人生を変えると信じています。」

先の長友は、実際にスペイン戦に勝利し、何度も「ラボーラー」と叫んでいます。仲間・監督・スタッフ・サポート等、全ての人達への「感謝」の気持ちを込めて…

「いざれ、大学・専門学校等へ進学したり、就職する皆さん、是非将来的自分を強くイメージして下さい。そのイメージの先に現実の自分があります。そして、親・友人・部活動の顧問・恩師等これまで自分を支えくれた人への「感謝」の気持ちをずっと持ち続けて下さい。この『感謝』の気持ちこそが、あなたの将来、そして人生を変えると信じています。」

ラボーラボ 2022



二学年主任 三上 有之

付き合いを増やす」「自分が目指す理想となる人をモディングする」「達成リストを作成する」等。感謝は幸福を感じさせ、幸福感がセルフイメージの向上につながるとか。このセルフイメージ力こそが、どのような分野においても結果に大きく関わることが様々な実験から証明されている。そして、このセルフイメージ力を高めるために、必要なこととして、よく次に挙げられることがあります。そのような現実を知ると、日本という平和な国で衣料や食料にも恵まれ、日々何不自由なく暮らしている私たちは、もつと周囲の人達に感謝の気持ちを持たなければいけないことに気づきます。

先の長友は、実際にスペイン戦に勝利し、何度も「ラボーラー」と叫んでいます。仲間・監督・スタッフ・サポート等、全ての人達への「感謝」の気持ちを込めて…

一学年

間木ノ平グリーンパーク

思いきり楽しみました!!

一年二組 小笠原 沙 希



遠足

10月5日



十月五日。私たち一年生は高校で初めての遠足に胸を弾ませながら間木ノ平グリーンパークへ向かいました。とても自然豊かな場所でした。霧がかかっていて肌寒く半袖には少し厳しい気温でしたが、軽く走り回るだけで体が温まりました。昼食は大人数で敷物を並べ、緑に囲まれながら食べました。コロナ禍ですが、大自然の中だったのでマスクをはずして、のびのびと食べたご飯はとてもおいしかったです。敷地内には遊ぶ場所も沢山あり、個人的に一番楽しかったのはローラースケートです。経験がなく、抵抗がありましたがあの手をつなぎ風をきつて滑ったのはよい思い出です。皆それぞれ色々な思い出が残ったと思います。来年度の遠足も楽しみですね。

二学年

おおのキャンバス

遠足

二年一組 石田叶大

私たちは、遠足でおおのキャンバスへ行きました。おおのキャンバスは雄大な自然があり、「食」、「遊び」、「ふれあい」、「工芸体験」を満喫することができました。

まず私たちは動物ふれあい館に行き、馬や牛、その他様々な動物とふれあいました。うさぎには、人参やキャベツなどのえさをあげました。とても可愛かったです。

次に竹とんぼを作りました。細かい作業が多く、とても苦労しましたが、時間をかけて無事完成しました。完成後に竹とんぼで友達と遊んで楽しかったです。

遊び疲れた最後にアイスクリームを食べました。ミルクの風味が口に広がっておいしかったです。

機会があれば今度は家族と行きたいです。



三学年

盛岡手づくり村

高校生活最後の遠足

三年五組 野村勝



私たち三年生は陶器づくりの体験をしてきました。そこで私は粘土のようなものを使って、お椀や湯飲みといったものを作るコースを選びました。そこで私は湯飲みを作ることにしました。お椀も湯飲みも作り方はとても簡単で大まかな形を作つてそこから整えていくという流れなのです。が、その中でも整えることが少々難しかったです。私は最初、力加減が分からずとても細長くなってしましました。そこから何とか修正することができ、模様を描いてもよいとのことだったので花火と自分の名前を入れました。完成したものを見てみると花火はうまく描けていたのですが、名前が最後の方があと少し消えていたのが少し悔しかったです。

私たち三年生は修学旅行がなくなっていたため、私は全力で遠足を楽しみました。他の人もそうだったと思います。また、今回の陶芸体験で形の残る思い出が作られたので良かったです。





修学旅行

12月6日～10日



普通科 奈良・京都・大阪



修学旅行

二年一組 清水 望陽

二年二組 佐々木楓太

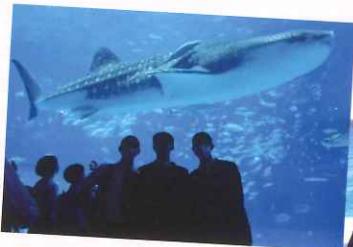
二年二組 荒川 仁太

二年三組 宮崎 莉一

二年四組 加藤 彩花

二年五組 松本 宗大

一日目は半分の時間が移動で、午後に清水寺に行きました。清水の舞台から見る景色はとてもきれいでいた。二日目は自主研修を行いました。十二月上旬の京都は少し寒く、紅葉がとても綺麗でした。京都の街並みや人の優しさにも触れ、いいところだと思いました。三日目は奈良の名所をみんなで観光しました。奈良公園のシカは愛嬌たっぷりで、とても可愛かったです。また、奈良の大仏もとんでもない大きさで神々しさと威厳を感じました。四日目はみんながとても楽しみにしていたU.S.J.に行きました。悔いがない位、全力で楽しめたと思います。修学旅行で、自分の目で見ることの重要性を学んだので、それを忘れず生活していきます。



またいつかウチナーの海に 潜りたいヤッサー

二年六組 馬場 美月

美ら海水族館には、沢山の生き物がいました。「サンゴの海」水槽では大規模なサンゴの飼育展示が見られ、大迫力の巨大水槽「黒潮の海」では世界最大の魚であるジンベエザメや、世界初の繁殖に成功したナンヨウマンタが観察できました。さらに謎に包まれた沖縄の深海を再現した「深層の海」水槽では、沖縄の海を丸ごと体感することができました。昨日まで本物の海で触れ合っていた魚たちを改めて水槽の中で見られたことも、滅多に見られない魚に出会えることも水族館だからこそその事で感動しました。ゆっくりと見られないところもあって残念でしたが貴重な体験ができ楽しい時間になりました。また行きたい。沖縄サイコー。



VIVA青春 菜華道部 書道部 ボランティアサークル部

茶葉道部

Ikenobo 2022

花の甲子園～今咲かせよう君の花～

**全国大会
敢闇賞!!**



全国大会では生ける直前まで花材がわかりませ
ん。生けこみやプレゼンテーションの不安に押
しつぶされそうでした。しかし、チームメイトや他

での地区大会となり、生けこみと作品のプレゼンテーションを動画にして送りました。何度も練習をして、やっと制限時間内に生けることができました。テーマに沿っているか、注意されるポイントはないかなどを想像して生きました。

池坊花の甲子園
全国大会に参加して
一年四組 風穴 档

池坊花の甲子園
全国大会に参加して



校生の楽しむ様子に不安や緊張も和らぎました。

ボランティアサークル部

書道部

部長
一年四組
泉山 結依
ボランティア
サークル部（通称“ボラサ”）は、
今年度、二十二名の部員で活動



してさまざまなお手伝いを通して、仕事や作業のしかたを体験したり、部員間の団結力を高めたりすることを目指とする活動です。運動部へのスーパー・ボランティア

しょあおした。近年、従来の活動（日本赤十字社・Japanese Red Cross Society：

してきました。近年、従来の活動（日本赤十字社・JRCの活動精神）が制限される中、西高独自の活動も行つてきました。

“スーパーボランティア活動”と称してやまざわまな“お手伝い”を通して、仕事や作業のしかたを体験したり、部員間の団結力を高めたりすることを目指とする活動です。運動部へのスーパーボランティア

活動として、草取りや石ころ拾い、グランド整備場のためには楽器運びのお手伝い、校内清掃活動なども行いました。西高祭では、活動内容の展示をし、高総文祭では、三八地区代表として赤十字部門大会に参加しました。活動自体は多くはできませんでしたが、これからも「気づき、考え、実行する」をテーマに多くのことを経験し、自ら考えて行動できるように活動していくことを思っています。

活動として、草取りや石ころ拾い、グランド整備場のためには楽器運びのお手伝い、校内清掃活動なども行いました。西高祭では、活動内容の展示をし、高総文祭では、三八地区代表として赤十字部門大会に参加しました。活動自体は多くはできませんでしたが、これからも「気づき、考え、実行する」をテーマに多くのことを経験し、自ら考えて行動できるように活動していくべきだと思っています。



らなかつたので、大変でした。しかし、指定されて
いる活動日以外も自分達から積極的に活動し
少しでも良い作品を作るうと意欲が見えていたの
で来年度も続けていきたいです。



進路指導部
竹浪二三正

14 / 40

私は三月で四十年間の教員生活を終ることになりますが、八戸西高校に三回赴任して合計十四年間勤務しました。教員生活の実に1/3以上をこの八戸西高校で過ごしたことになります。十四年間で卒業生を一度しか出さなかつたのが心残りですが、それは今言つてもどうにもなりません。

しかし私自身を教員として大きく成長させてくれた学校だつたことは間違ありません。初めて赴任した当時のことを少し書きたいと思います。

平成五年四月に初めて八戸西高校に赴任して十九回生の一年五組の担任となりました。当時は各学年普通科八クラス各クラス四十五名ですか

ら、一学年三百六十名、

全校生徒千名を超える規

模の学校でした。私は全

校生徒四百名に満たない

学校での教員の経験しか

なかつたのでこの規模に

はさすがに驚いた記憶が

あります。また進学校と

いわれる学校への赴任も

初めてでした。いろいろ

な意味で私にとって初物づくしのスタートでした。

十九回生の学年団は学年主任化学の

I先生、副主任は国語のS先生、そ

の他生物のO先生、国語のもう一人のS先生、英語

は二人のH先生とS先生、数学はI

先生と私、世界史

のH先生というメンバー

でした。卒業時には多少

担任の入れ替わりがあり

ましたが、あつという間

の三年間で、当時の生徒

たちと周りの先生方から

本当に多くのことを学ぶ

ことばかりでした。三年

間苦労したこと楽しかつ

ったなど書ききれないほど

いろいろなことがあります

したが、十九回生での最

大の思い出といえば生徒

たちの努力も当然あり

ますが、多くの先生方

のサポートもあり八十七

名が国公立に合格する

ことができたということ

でしょうか。今後生徒が

増えることはないのでお

そらくこの数字は八戸西

高校で国公立入学者数

が「八戸西高校で良い経験

ができた」、「八戸西高校

での思い出を大事にした

い」そのような形で振り

返すことができるそのよ

うな学校であり続けて欲

しいと思っています。

八戸西高校に感謝して

私の話を終わりたいと思

います。

（助）

のH先生というメンバーで

した。卒業時には多少

担任の入れ替わりがあり

ましたが、あつという間

の三年間で、当時の生徒

たちと周りの先生方から

本当に多くのことを学ぶ

ことばかりでした。三年

間の印象は強烈でした。

二回目三回目の勤務で

もそれぞれに思い出もあ

りますが、やはり教員と

しては担任をしていると

本筋のことが一番記憶に残

ります。そこで私は、皆

が元気な元気なさわやかな

印象で、元気な元気なさわやかな

進路状況について

進路指導主任 宮重太一

現三学年の志望動向は表のようになっている。

六十%近くが四年制大学、三十%が短期大学・専門学校、十%が就職を志望している。全体的な割合は例年と大きな違いはない（昨年度の卒業生五クラスで百九十六名）。

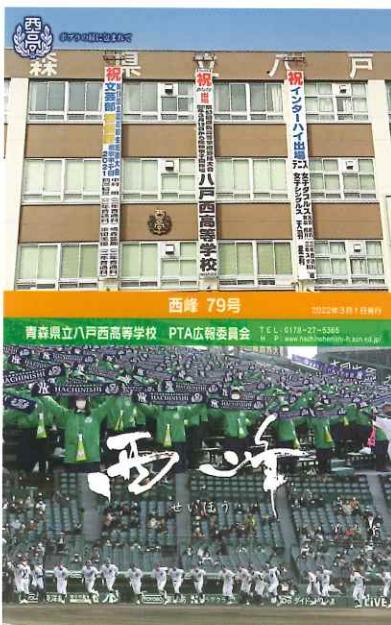
国公立大志望者の割合は十八%から二十五%に増加し、昨年度の割合とはほぼ同じになった。十二月末時点での進路決定者率は昨年度より七%低いが、こちらも一昨年度と同程度の割合となつた。今年度は、これから一般受験に挑戦する生徒が三割ほどおり、団結して入学試験に向けて頑張っているところである。

就職に関しても、例年どおり保安系公務員の人気が高かった。十六名が警察・消防・自衛隊に合格を決めている。民間企

業においては三名が内定を得た。

現三年生は、高校生活すべてがコロナ禍に置かれ、オープンキャンパスや看護体験などへの参加が制限された。また、課題研究のグループ活動についても満足のいく活動をすることはできなかつた。しかし、受験生はみな同じ困難に直面していたのであり、その中で何をしてきたかということが大切であった。二年次

校種	志望者数	
4大	133	国公立 57
		私立 76
短大	14	
専門・他	62	
就職	23	
その他	0	
計	232	



令和4年度 広報紙コンクール
PTA広報「西峰」 奨励賞受賞!!

編集後記

令和四年度青森県高P連主催の広報紙コンクールに応募した「西峰」第七十九号（昨年度最終号）が、県内応募総数三十六校の中から奨励賞に選ばれました。今年度から「西峰」は西高のホームページにも掲載されていますので、PTA活動や生徒の活躍をぜひご覧ください。これからも皆様に愛される「西峰」であり続けることを願っております。今年度も一年間ありがとうございました。

（山）

の課題研究が単なる調べ学習になっていた生徒、新聞や本を読んでおらず、志望分野の基礎的知識が不足していた生徒は、志望理由書等の出願書類作成や面接対策にかけにすることはもちろんのこと、情報収集に努め、早い時期から進路について具体的に考え、その分野についての知識を深めていってもらいたい。

令和4年度 進路状況

学校推薦型選抜・総合型選抜での主な合格先 (R4.12.28 現在)

【4年制大学】

室蘭工業大学	岩手保健医療大学	流通経済大学
岩手大学	東北学院大学	産業能率大学
山形大学	東北福祉大学	大東文化大学
公立はこだて未来大学	仙台大学	武蔵野大学
青森県立保健大学	宮城学院女子大学	杏林大学
青森公立大学	仙台白百合女子大学	帝京平成大学
岩手県立大学	東北文化学園大学	創価大学
札幌学院大学	尚絅学院大学	工学院大学
北海道文教大学	国際医療福祉大学	日本体育大学
札幌国際大学	東京福祉大学	立正大学
八戸学院大学	駿河台大学	日本大学
八戸工業大学	千葉工業大学	関西学院大学
弘前医療福祉大学	秀明大学	

【短期大学】

八戸学院短期大学	聖和学園短期大学	戸板女子短期大学
仙台青葉学院短期大学	埼玉医大短期大学	

公務員の合格先

八戸広域市町村圏事務組合消防	青森県警察	航空自衛隊一般曹候補生
八戸市職員	警視庁	海上自衛隊一般曹候補生
五戸町役場	神奈川県警	陸上自衛隊一般曹候補生
八戸圏域水道企業団	神奈川県警察事務	航空学生